

研究主題

# 小学校通常の学級における特別な教育的支援を必要とする児童への支援の在り方に関する研究

—校内で共通理解を促すための研修資料集の作成をとおして—

【研究担当者】 佐藤 文円 横澤 修 杉本 光生 五安城 正敏

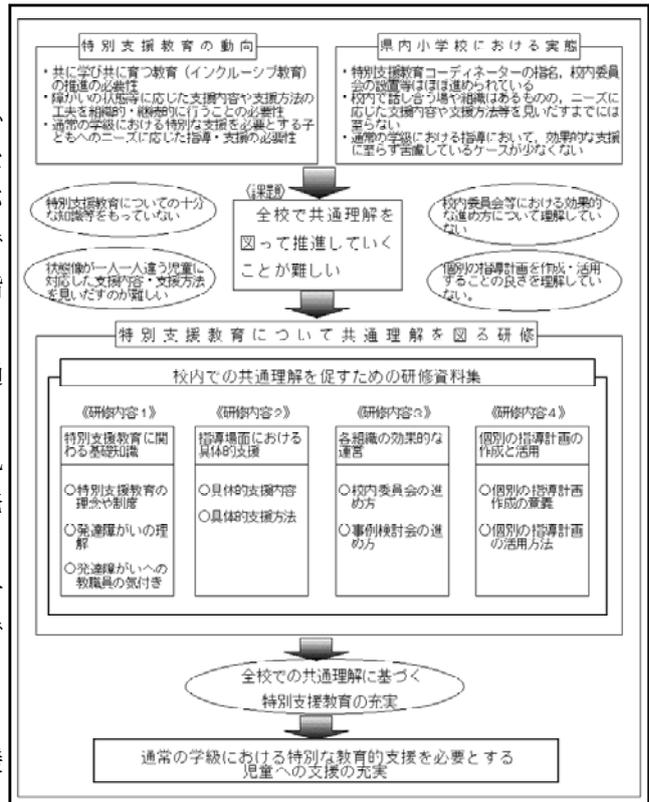
【この研究に対する問い合わせ先】

特別支援教育担当 TEL 0198 - 27 - 2821 FAX 0198 - 27 - 3562 E-mail sien-r@center.iwate-ed.jp

## 特別支援教育の現状と研究の概要

特別支援教育の制度が整えられたことにより、特別支援学級等に在籍している児童だけでなく、通常の学級に在籍している特別な教育的支援を必要とする児童(LD, ADHD等)も含めて適切な指導と必要な支援を行わなければならないことが示されました。また、小学校学習指導要領総則では、個々の児童の障がい等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うことが示され、教職員間で共通理解を図り、学校全体で見通しをもって支援していくことが求められました。しかし、ニーズに応じた支援内容や支援方法を見いだすまでには至らず、児童の望ましい成長や発達に結びつかない状況も見られます。この要因として、多くの教職員が特別支援教育についての十分な知識等がなく、通常の学級という集団の中で個に応じた支援をすることに難しさを感じていることなどが考えられます。

こうしたことから本研究は、特別な教育的支援を必要とする児童の理解や支援、及び、校内委員会や事例検討会の進め方等を具体的事例や映像等で示した研修資料集を作成し、校内研修会等で活用することにより、通常の学級における特別な教育的支援を必要とする児童への支援の充実を図るものです。



【図1】本研究の基本構想図

## 県内実態調査から明らかになったこと

特別支援教育についての校内研修の現状を把握するため、県内の公立小学校を対象に実態調査を実施しました(標本抽出法により、全408校から268校を抽出実施 回収率86.9%)。その結果、以下のことが明らかとなりました。

- これまでの研修により、LDやADHD等の障がいの理解に関する概論的な障がい等の理解は進んできてはいるものの、実際に目の前にいる一人一人の児童に対しては、効果的な支援方法等が見いだせない。
- 実際には、学級担任一人で一斉指導の中で指導・支援していく場面が多く、通常の学級における一斉指導場面での支援のイメージがつかめない。

これらの課題を解決するための研修資料集が必要であることが確認できました。

## 研修資料集（案）の構想

### 1 研修資料集（案）の概要

研修資料集（案）は、特別支援教育の理解を促すための「映像編」と具体的推進に活用できる資料を収めた「資料編」で構成しました【表1】。「映像編」は主に、校内で開催される研修会の際に使用することを想定し、「資料編」は研修会後の日々の特別支援教育推進のために活用することを想定し、一枚のディスクにまとめることとしました。

【表1】研修資料集の構成

映像編	資料編
1 教職員の気付き	○ 児童支援方法策定ソフト「さんじゅうまる」
2 実態把握と具体的支援	○ 個別の指導計画様式例
3 事例検討会	○ 参考リンク集
4 必要な支援を行うためのポイント	
5 まとめ	

### 2 研修資料集「映像編」（案）の概要

通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする架空の児童を設定し、その児童への支援の流れを具体的に関連づけることにより構成しました。

### 3 研修資料集「資料編」（案）の概要

「映像編」の中で実際に使われる指導・支援のためのシート等の具体的なツールや特別支援教育を推進していく際に必要となるツールをデジタルデータとして盛り込むこととしました。児童支援策定ソフト「さんじゅうまる」は、児童の示す気になる様子やつまずきの特徴から、その行動の背景を探り、支援方法を想定できるように当センターにおいて作成したデータベース化したソフトです。

## 研修資料集作成にかかわる実践

### 1 実践の概要

研修資料集「映像編」（案）については、実際に校内研修会で活用し、その結果をもとに改善を加え完成させることとしました。花巻市立八重畑小学校の先生方のご協力をいただき、研修資料集「映像編」（案）を用いた校内研修会を実施していただき、その後、全教職員の方々に研修資料集「映像編」（案）の有効性等について、アンケートに回答いただきました。

### 2 アンケート調査結果

全教職員 11 名中、5名は有効であったと回答し、6名はあまり有効ではなかったのとの回答をいただきました。【表2】は、回答いただいた意見（「有効であった点」「改善を要する点」）の主な内容です。これらの意見を生かして、研修資料集の修正を行い完成させました。

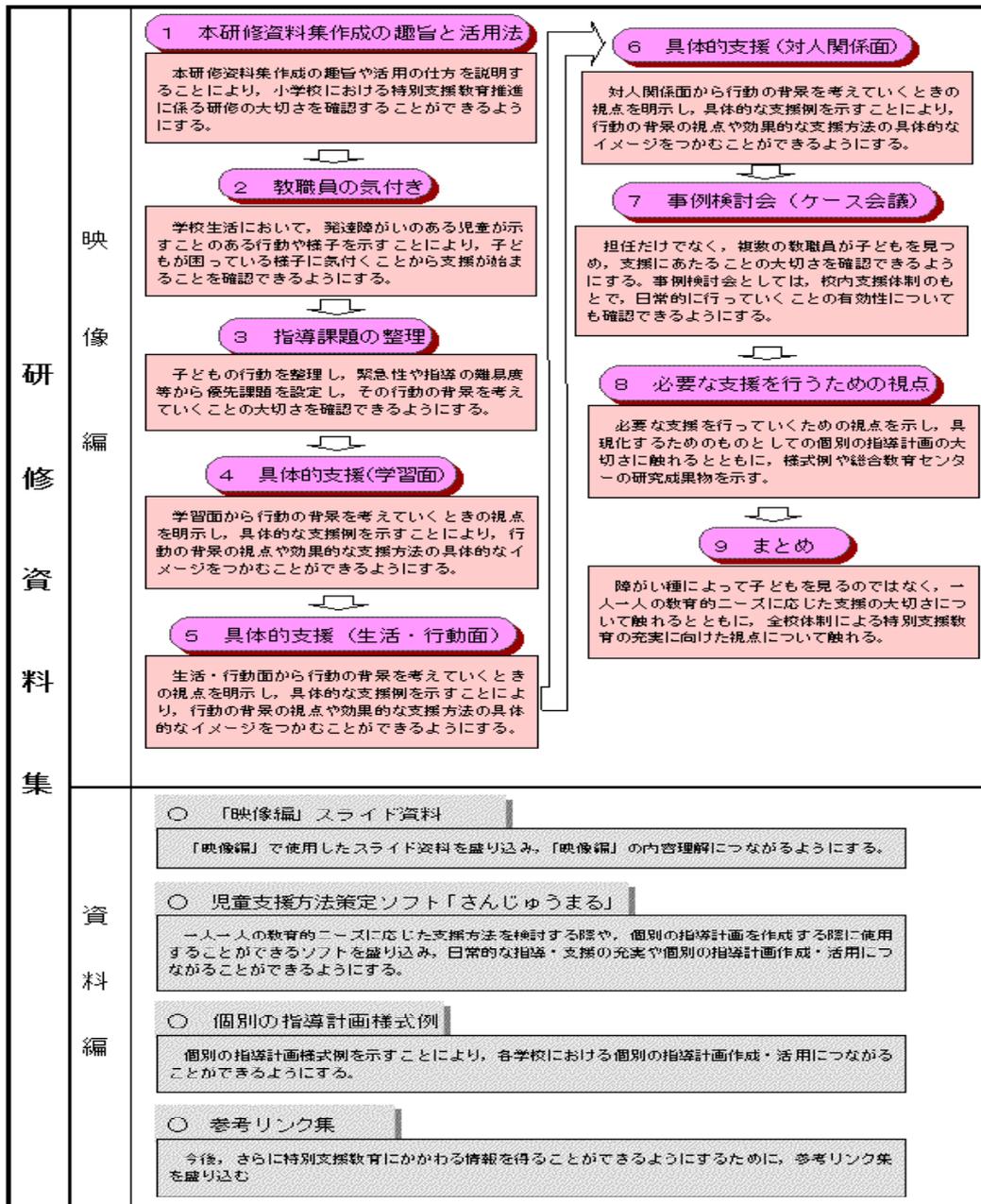
【表2】研修資料集「映像編」（案）に対する意見

有効であった点	改善を要する点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導の具体が提示されていてわかりやすかった。</li> <li>・ 教師レベルでの対応の仕方が詳しくわかる内容であった。</li> <li>・ 映像資料なので、文書では捉えにくい具体的なことがわかるメリットがあった。</li> <li>・ 特別な指導を要する子がいた場合、チームで支援にあたることがわかった。</li> <li>・ 特別支援教育のスタートが「教職員の気付き」からで、理解ある人の支援が第一ということが再確認できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研修資料集の活用法及び作成の趣旨に関わる内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「教職員の気付き」から始まる内容だったが、その前に研修資料集の活用法や作成の趣旨等を説明した方が理解しやすくなる。</li> </ul> </li> <li>○ ポイントとなる場面での解説に関わる内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 映像のみでなく、その映像の内容を解説した文書が同時にあり映像の内容がより活用できる。</li> <li>・ 映像の中のポイントとなる内容については、スライド資料等を挿入した構成の方が分かりやすくなる。</li> </ul> </li> <li>○ 対象児童の障がいの明示に関わる内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 映像に登場した対象児童は、どういう部分で困っているのかについては示されていたが、発達障がいのどの種類に当てはまるのかについて示していなかった。LDやADHD等の種類をはっきり示した方がよい。</li> </ul> </li> </ul>

# 研修資料集の作成

## 1 研修資料集の構成と主な内容

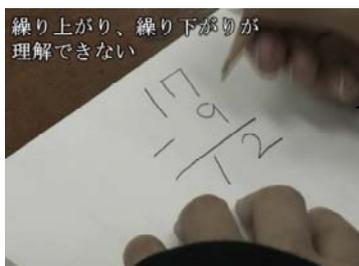
研究協力校の先生方からいただいたご意見を生かして、研修資料集の修正を行いました。修正後の研修資料集の構成と主な内容は【図2】のとおりです。



【図2】研修資料集の構成と主な内容

## 2 研修資料集「映像編」の主な映像

### (1) 教職員の気付き



「繰り上がり、繰り下がりが理解できない」等、発達障がいのある児童が示す様子を、モデルの子どもが小学3年生児童を想定して演じています。

行動の背景を学習面の困難さからとらえ、数量概念、記憶力、空間認知にかかわる具体的な支援方法を示しています。

### (2) 具体的支援（学習面）



(3) 事例検討会（ケース会議）



事例検討会のよさは様々な視点から児童を見取ったり、支援策を考えたりするところにあります。定期的開催する会議も大切ですが、職員室等で日常的になされる「事例検討会」の大切さを示しています。

まとめとして、「気付き」と「個別の指導計画」を全校で共通理解して組織的に取り組むこと、「校内体制」「ヒューマンイズム」等を土台とした、自立を目指した指導・支援が大切であること等を特別支援教育担当主任研修指導主事が解説しています。

(4) まとめ



3 研資料集「資料編」の主な内容

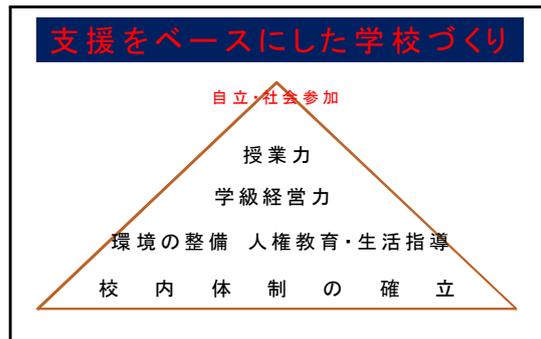
(1) 個別の指導計画様式例（一部抜粋）

【巻末資料1】個別の指導計画様式例(年間型)				
個別の指導計画 様式例1 年間型				
特徴 ・年度初めに作成を想定 ・全体的な支援を想定				
氏名	第 学年	組	担任	
調査の結果				
現在の 実態	保護者・子どもの願い			
	健康面			
	運動・手先			
	学習態度			
	学習	国語		
		算数・数学		
		その他		
社会性・情緒性				
実態の分析と指導の方向性				
今年度の目標(長期目標)		主な指導の場		
学習面				
生活面				
社会性・対人関係				
( ) 学期の取組				
指導計画		指導結果		
学習面		実容と課題		
生活面				
社会性・対人関係		手だてについての評価		
具体的手だて				
評価の観点		来学期の方向性		

(2) 児童支援方法策定ソフト「さんじゅうまる」



(3) 「映像編」スライド資料（一部抜粋）



研究のまとめ

本研究では、校内で活用できる研修資料集を作成し、それに基づいた実践を行い研修資料集の修正を行いました。主な成果と課題は以下のとおりです。

1 成果

(1) 映像編

- 一斉指導場面を想定した実際の映像を使用したことにより、具体的な支援の幅を広げることにつながったり、間違った認識を改める機会となったりして、研修会や文献等で学ぶ以上に効果的な支援方法等を見いだすことにつながることが確認できた。
- 障がい別に類型化した観点ではなく、児童が示す困っている様子から支援内容や支援方法を焦点化する構成にしたことにより、障がいを特定すること以上に、個々のニーズに応じて支援していくことの大切さを示すことができた。
- 校内の複数の教職員間で共通理解を図って支援していく際には、日常的な何気ない情報交換や話し合いが大切であることを示すことができた。

(2) 資料編

- 児童の気になる様子やつまづきなどの特徴から支援方法を想定できるようにデータベース化した児童支援方法策定ツール「さんじゅうまる」、個別の指導計画様式例等のデジタルデータを盛り込んだことにより、より日常的な支援に活用できるものとなった。

2 課題

- 校内における特別支援教育研修会の更なる充実のために、研修資料集を使用した校内研修プログラム等の例を提示することが必要である。